

ウェブ上の観光コンテンツを組織化するための共通タグ「北海道観光情報タグ」の実証実験を実施

(社)北海道観光振興機構 情報システムワーキンググループ(所在地:札幌市中央区、座長:川村秀憲)と北海道大学発ベンチャー株式会社調和技研(所在地:札幌市北区、代表取締役:山下晃弘)は、各地域の観光産業関係者や観光客及び地域市民が、ウェブ上に自由に発信する様々な観光情報を集約し、検索性を高めて組織化するための共通タグ「北海道観光情報タグ」に関する実証実験を実施致します。

ICTの発展と共に、各地域の観光産業関係者や観光客自身が手軽に観光情報を発信できる環境が整いつつあります。特に、Mixi、Twitter、FacebookといったSNSの普及がそのような情報発信を加速させている状況の中で、それらの情報が散逸してしまい、観光客が必要な情報を手軽に見つけ辛くなっている状況にあります。そこで、現在、北海道観光振興機構情報システムワーキンググループでは、自由かつ大量に発信される観光情報の検索性、再利用性を高めて組織化するための方策として、「北海道観光情報タグ」(以下共通タグ)の制定についての検討を行っております。具体的には、ウェブ上に発信されるSNS、ブログ、写真、動画などの情報に対して共通タグの付加を推進し、誰もが自由に観光情報を発信できるプラットフォームを整えつつ、それらを集約して速報性、網羅性の高い観光情報の発信を目指して参ります。

同ワーキンググループでは、前述の未来における観光情報システムの在り方について「ソーシャルマッシュアップサイト構想」(図1参照)として具体化するべく、まずはその実証実験として、株式会社調和技研と協力し、共通タグを利用した観光情報配信と、その効果測定を実施致します。今回の実証実験では、調和技研が運営する地域情報サイト「あなた情報マガジンびも〜る」で扱う観光コンテンツに対して共通タグを設定すると共に、北海道観光振興機構が所有する観光コンテンツ約4000件に対しても共通タグを設定した上で、びも〜るシステムを利用して発信致します。共通タグは来年度に実施される北海道ディステーションキャンペーン「こころにくる旅。キュンと北海道」での広報を想定し「#キュン旅〇〇」(〇〇には地名)と設定致しました。

実証実験では、各観光コンテンツに共通タグを設定し、ウェブ掲載と同時にSNSなどで広く発信することで、それに対する口コミを含めたユーザサイドからの情報発信も促し、共通タグの利用拡散を試みます。実証実験により得られたデータは、北海道大学と協力の上、共通タグの利用実態及び今後の方針に向けた分析を実施致します。分析に際して、北海道大学情報科学研究科 川村秀憲准教授(北海道観光振興機構 情報システムワーキンググループ座長)が中心となり、地域観光産業活性化の観点で今後の共通タグの活用方針と可能性について評価を実施致します。

+++++

■あなた情報マガジンびも〜る (<http://bemall.jp>)

■本リリースに関するお問い合わせ

・社団法人北海道観光振興機構 情報システムワーキンググループ

事業計画室 山崎/広報グループ 堀口 Tel: 011-231-0941

・株式会社調和技研 山下晃弘 Tel: 011-717-7017 E-mail: office@chowagiken.co.jp

観光情報WG ソーシャルマッシュアップサイト構想

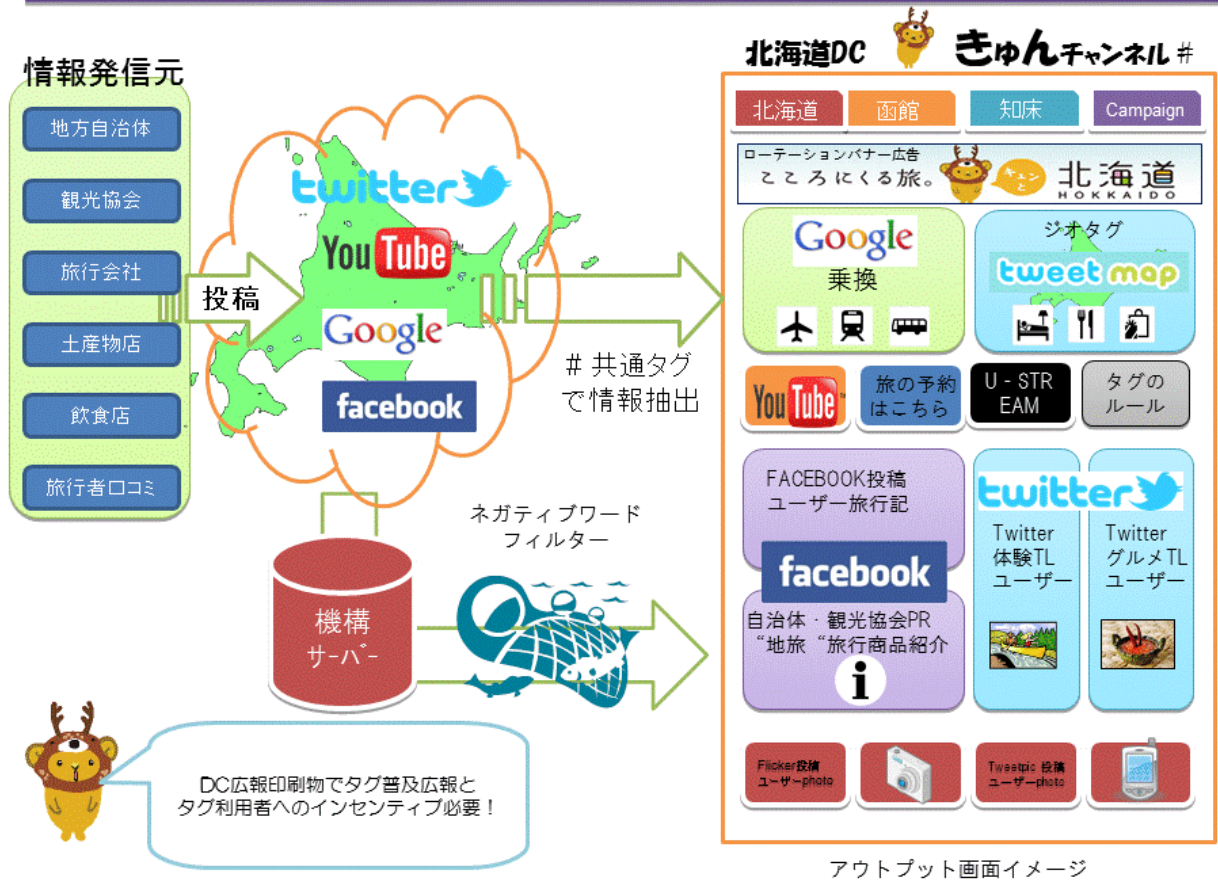


図1：ソーシャルマッシュアップサイト構想概念図